

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会 平成28年8月25日発行

No.119



(和智埜神社祭礼:撮影 平野かほり)

御神輿巡行の始まりです。「さよな さよな げにも さよな」

(公財) 妻籠を愛する会役員改選による新体制開始

理事長 小林 俊彦

昭和43年9月、長野県明治百年記念事業「妻籠宿保存工事」が始まり、過疎化と限界集落からの脱出を目指し、行政と学者と住民が共働して事業の成功を期しました。住民は妻籠を愛する会を組織して、事業に協力、以来49年、事業は成功し、日本の妻籠から世界の妻籠とその名を知られるようになりました。妻籠を愛する会も、昭和58年に財団を設立し、事業を推進してきました。この49年間を振り返ってみる。組織の役員として選ばれた人たちの苦闘を偲ぶ時、真に感無量であります。

財団も世の動きに対応して、長野県認定「公益財団法人」になりました。公益財団とは、財団の経営内容が、真に公衆の為になっているか否か、運営の為に利益を挙げる事業が加わっていないか等細かい資格要件があります。公益財団認定以来3年理事長の職にありました。

今回6月7日、理事会において、理事長に推薦されたので、諸般の事情を勘案した上で、もう一期理事長を勤めさせて頂くことになりました。後1年で妻籠宿保存事業が始まって以来50年の記念すべき年になります。今年、日本遺産に選定されました。世界の妻籠の名に恥じないよう老骨に鞭打って頑張る所存です。

皆様の倍旧のご支援ご協力をお願いいたします。

総務委員長 原 修己(新任)

今まで総務副委員長として委員長を補佐してまいりましたが、今回委員長という大役を受けることになりました。荷の重い役ではありますが、今までの経験を活かし、皆さんの協力を得ながら活動していきたいと考えています。

来年度(29年度)は、妻籠宿保存開始50年の節目の年を迎えます。いままで以上に大切な1年となります。総務委員会としても積極的に関わっていききたいと思えます。地域の皆さんの素直な意見をお聞きしながら財団執行部との意思疎通を図ります。

宿場保存から50年、いろいろな課題が出てきました。「妻籠宿」を守るのは我々妻籠に住む者の責務です。一つ一つ問題をクリアし、一丸となって取り組むことが必要です。財団の活動が解りにくいとの声を耳にします。定期的に報告会を開催し、地域の皆さんの意見を聞く場を持つよう提案していきます。

微力ではありますが、よろしくお願いいたします。

統制委員長 宮下 朋之(新任)

このたび、松瀬前委員長の後任として、統制委員長の大役を務めさせて頂く事になりました。

これからの五十年・百年先の妻籠宿を思い、どう守っていくか、統制委員会のメンバー全員で考え、活動しています。

保存と生活のバランス。時代の流れに現在の保存をどう融合させていくか。後継者問題。難しい様々な問題を抱えていますが、妻籠宿には、『住民が生活しながらの歴史保存約五十年』の輝かしい実績があります。地域の皆さんの知恵と力を結集すれば、未来の妻籠宿を更に魅力あるものにしていけると思っています。統制委員会がその一端を担っていけるよう、精一杯務めさせていただきます。

日頃から皆様には、様々な形で妻籠宿保存の取組みにご協力頂いておりますが、今後とも引き続きご協力のほどよろしくお願い致します。

環境保全委員長 今井 啓文(再任)

前回に引き続き環境保全委員長を担当することになりました。草刈り機を初めて手にしたのはもう30年程前になるでしょうか。

青年部として河川敷やあちこちの作業に草刈り機がないと肩身の狭い思いがあり、当時皆でまとめて機械を買いました。思い返してみても一石栃や城山の小屋造りなどの大きな仕事や、それ以外にも草刈り、道直し、花木の植栽、倒木処理など、やるべきことは山積みで、整備作業といえ半日目一杯働き、青年部は当たり前のごとく午後からも作業に駆り出されました。皆燃え、宿場内外の環境維持のため汗を流しました。皆若かった。

今年年間を通して多様な作業がありますが、近年は特に外来生物が年々増加し、ここ4、5年オオキンケイギクやアレチウリの除去をしてきましたが、昨年あたりからオオハングソンソウが増殖し、除去作業に時間を費しています。

環境維持のため、皆様のご協力をお願いします。



文化広報委員長 原 信 之(再任)

〈私が思うこれからの妻籠宿に必要なこと〉

私は、文化広報委員長を引き続きやらせて頂く事になりました。今回2期目になりますが、以前は(公財)妻籠を愛する会と妻籠観光協会の区別もわからないほどの私でしたが、少しでもお役に立てればと思い、会議や作業にも参加させて頂いています。主には広報「妻籠宿」の編集で、広報誌を通じて皆様に妻籠宿の出来事をお伝えしています。

妻籠宿の保存が始まって49年が経ちました。先代から引き継いだものをどの様に残していけばいいのか、時々考えることがあります。保存、観光、そして住人が楽しめる地域づくり。大切なのは、そのバランスだと思っています。非観光業者の方々の協力があってこそ、保存が成り立っていることに感謝しています。これから私も、変わらない妻籠宿、でも、飽きない楽しい妻籠宿になる様に、皆さんと協力できればと思っています。任期2年間よろしくお願いします。

1.理事会(11名) 任期:2年

理事長:小林俊彦

副理事長:鈴木省吾

常務理事:藤原義則

理事:原修己(総務委員長)

松瀬博敏(統制委員会)

今井啓文(環境保全委員長)

原信之(文化広報委員長・広報部)

松下達也(文化広報委員会・広報部)

藤原陸夫(総務委員会・駐車場責任者)

藤原和年(環境保全委員会)

平田伊知郎(環境保全委員会)

2.評議員会(15名) 任期:4年

評議員:松下武(総務委員会)

石垣八十志(統制委員会)

下條廣一(統制委員会)

木村和恵(文化広報委員会・広報部長)

今井好紀(文化広報委員会)

小笠原美雪(文化広報委員会・広報部)

下枝正敏(環境保全委員会)

内藤米康(総務委員会)

鈴木富子(総務委員会)

伊藤伸三(総務委員会)

宮下朋之(統制委員長)

山内勉(総務委員会)

加藤洋子(総務委員会)

新井新作(総務委員会)

麦島忠良(統制委員会)

※括弧内は所属委員会

3.監事会(2名) 任期:4年

監事:鈴木邦也、志水達也

日本遺産について

南木曽町教育委員会 鈴木 義 幸

木曽郡内6町村と塩尻市のエリアが平成28年4月25日付で文化庁から「日本遺産」に認定されました。

「日本遺産」とは、文化庁が平成27年度に創設した制度で、平成27年度18件、平成28年度19件が認定されました。5年間で100件程度の認定を想定しているとのこと。これまでの文化財行政は、個々の遺産を「点」として指定・保存することを重視していたのですが、この「日本遺産」には、点在する遺産を「面」として捉え、パッケージ化した文化財群を一体的に活用・PRすることで地域のブランド化を促進し、地域の活性化につなげる狙いがあります。

そのため、歴史的経緯や地域の風習に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承、風習などを踏まえた「ストーリー」が認定されるものです。ストーリーを構成する文化財群は地域に受け継がれている有形・無形のあらゆる文化財が対象で、地方指定や未指定の文化財を含めることも可能ですが、国指定・選定のものを必ず含めることが必須条件でした。その意味では、重伝建地区の妻籠宿と国史跡の中山道が核として重要な要素となっています。

また、日本遺産の認定を受けるには、著名人や外国人を含めた審査委員会の審議でストーリーを認めてもらう必要がありました。かなりハードルが高かったのですが、今回の認定の申請については、長野県教育委員会、木曽地方事務所をはじめとする長野県の絶大なるお力添えをいただき認定に至りました。7市町村という広大なエリアで街道だけに留まらず、御嶽山信仰や山と深く関わる中で産業も含めたストーリー「木曽路はすべて山の中～山を守り山に生きる～」が評価されたようです。

この「日本遺産」認定を契機に地域の魅力を発信し、近年災害に見舞われた木曽地域の復興につなげることが長野県からも期待されています。



★第36回南木曾町・妻籠健康マラソン大会開催2016.6.5★

瑞浪市：10km 1位 西尾 修 一

妻籠宿と私との付き合いは、かれこれ十年くらいになります。私は当時から今までトヨタスポーツマンクラブというチームで走っており、8月初めに行われる富士山登山駅伝競走大会を良い記録や走りができるよう日々健脚を磨いております。この妻籠宿での大会は前述の駅伝大会の調整も兼ねておりました。

レースの話をしますと、スタートをして100m強で、会館横の上りがあります。この上りは1^{キロ}ほどまで続き、序盤での足が試されます。序盤からランナーは厳しいもので、声援がありがたかったりします。次に1^{キロ}から6^{キロ}ほど緩やかなアップダウンの雑木林の小径を走ります。今回は、雨・曇りだったため、さして気にはならないですが、晴天時は日陰ができてランナーとして楽なところではあります。6から7^{キロ}は宿場街への下り。これは、足に負担がかかる為に気を遣う所です。そしてこのレースの要ともいえる宿場町を走っていきます。歴史的な趣がある道を走りますが、先頭で行くと普通の観光客の方もびっくりされます。そして宿場町をぬけ、くたびれた足で1^{キロ}上り、最後の健脚を試されます。そしてゴールへのラスト2^{キロ}の緩やかな下りから1^{キロ}の急な下り。特にラスト1^{キロ}が最初上るのに難儀した道をそのまま下りという、スピードをつけて走るとスキーの直滑降みたいな速度で下ります。…と言っても「レース」する視点で書いているので「ファンラン」する方は無理・無茶しないようお願いします。

最後にこの大会で妻籠宿にお世話になり、あたたかい地域の方の声援と各ランナーの方のモラルにあふれた大会になっております。これからもこの妻籠宿の大会を好きに走って貰えればと思います。



〈声援の中妻籠宿を駆け抜ける西尾さん〉

岩手県：遠来賞・健康大賞 高 槻 譲、くみ子

私達は平成19年第27回大会以来2度目の出場でした。今回は10年前に広島の大会で知り合った名古屋のご夫妻と妻籠宿で待ち合わせ、久しぶりに再会して夫婦二組で参加することができました。ランナー仲間として交流を続けてきたことの良さを実感しています。

さて、大会では二人とも70歳代の部に出場、私は10kmで5位、家内は6kmで2位と夫婦揃って入賞することができ、とても充実した大会となりました。また、遠来賞、健康大賞までいただきこの上ない喜びとなりました。

コースは、アップダウンの厳しいコースで大変でしたが、昔の面影が残る妻籠宿のメインストリートを思いきり走れたこと、沿道の皆様の応援もひとときわ熱が入り陣屋太鼓に後押しされ元気をもらいゴールできました。

おかげさまで懐かしの妻籠宿に一泊、宿の方々からも心温まる手づくりの応援旗を準備していただき大歓迎を受けました。

大会終了後、私たち4人は奈良井宿へ移動し、お茶壺道中を見学。翌日鳥居峠を散策し中山道の佇まいも堪能いたしました。

今後の目標は、二巡目の「夫婦で日本全国ランニングと温泉めぐり」の全国制覇達成（残り29府県）と夫婦で生涯現役ランナーを目指し走り続けていきたいと思っています。

大会期間中は、関係者の皆様方に大変お世話になりました。ありがとうございました。様々なアイデア・企画等とても素晴らしい私達夫婦にとりまして誠に思い出深い健康マラソン大会となりました。



〈陣屋太鼓の応援と妻籠宿を走る高槻くみ子さん〉



南木曽の皆さんの温かさ

妻籠宿に魅せられて10年参加しました

愛知県：70歳代6km 高橋 善明

私が、初めて南木曽妻籠健康マラソンに参加したのは、平成19年5月の第27回大会でした。コースは、アップダウンできついが、なんと言っても日本遺産の妻籠宿のメインストリートを大勢の観光客、お店の売り子さんらに温かい声援や応援を受け、地元の力強い太鼓演奏を聞きながら駆け抜けるのは、かつて良く、疲れもなんのその楽しささえ感じるマラソンでした。こんなに、大勢の方に応援を受けての大会は、おそらく他には、ないと思いました。ひとたびゴールをすれば、お母さん方の、手作りのきゅうり漬や小梅が待っていて麦茶と飲むゴールの味と塩分補給の快感、やったーという喜びと爽やかな気分になり、また、来年も来るゾーという気持ちが沸いてくる温かい心のこもった大会そのものでした。

こうして、毎年6月(途中から5月から6月に変更)に開催の大会には、私の生活のイベントの一つになりました。今でも変わらない大会の運営、温かい地域を挙げての応援とご協力に心待ちする大会になりました。私も定年後の生涯スポーツにマラソンとスキーをやっていますが、大会には、体力の続く限り参加したいと思っています。今年は、既に、76歳の体、昨年に引き続き健康大賞の晴れがましい賞とタスキをいただきました。家族にも、喜んでもらいました。

一昨年の大会で失態をおかしました。大会当日に、シューズをすっかり忘れてしまいました。恥ずかしいことですが、思いきって大会の役員席に行き、靴を忘れたのでどなたか予備のある方にお借りできないかと申し出ましたら、ダイシンコンサルタントの田口社長さんがおられて、自分の古い方の靴だけど良かったら使ってくださいと運良く靴に出会いました。サイズもぴったりで天の助けと感謝し無事レースができました。人生長生きするものだと思えば、まだまだ良い人がいると改めて気づきました。その靴は、今年も頑張りました。



〈走り終えてくつろぐ高橋さん〉

実行委員 桜井 克也

第36回南木曽町・妻籠健康マラソン大会が、6月5日の日曜日に開催されました。当日はあいにくの雨でしたが、900人余りのランナーに参加していただき盛大に実施されました。私も数年前から実行委員としてボランティア活動に参加しています。

数あるマラソン大会でも、36回もの回数を迎える大会は少なく、南木曽町にとっても価値のある伝統ある大会だと思います。

マラソンの開催にあたって毎回1,000人余りの参加があることから、ボランティアの協力は欠かせない業務で、大勢の人がボランティアに参加いただき感謝します。毎回大会のボランティアに参加して思うことですが、ランナーに声援を送ると「ありがとう」「ごくろう様」等声をかけていただきやりがいを感じています。マラソンの時期的にも新緑の綺麗なことと、妻籠宿の風情ある宿場の風景がマッチして、最高のロケーションで、気持ちよくランナーが駆け抜けることができています。マラソン大会を通じて、全国のランナーに妻籠宿の魅力を発信できたらいいと思います。

ランナーの声からも、妻籠宿を走るようなマラソン大会は無く、感動してリピーターになるランナーも多いと聞きます。これからも、伝統ある南木曽町・妻籠健康マラソン大会が南木曽町のイベントとして、長く引き継がれたらいいと思います。



〈本陣前給水で応援〉



〈寺下を駆け抜ける子どもたち〉

事業報告会開催

広報部 下 枝 その子

平成25年4月1日に公益財団法人に移行し、5月26日の定時評議員会をもって最初の評議員の任期が終わり、この6月から新しい評議員・理事・監事が選任されました。これを機に地域の皆様に定款・組織図・役員・前年度の事業報告・本年度の事業計画等についての報告会が、7月14日の夜開催されました。42名の方々のご参加がありました。ここでは、報告と質疑の要旨をまとめてみました。

【定款】

〔質問〕

- ・定款は各戸に配布されていない。何処で知るのが。
- ・評議員選定委員会についての取り決めがない。
- ・事業計画等について理事会だけで決めるのはおかしいのではないか。

〔回答〕

- ・公益財団法人に移行の際区長回覧している。
- ・定款については事務所にあるので閲覧してください。

【駐車場収入と受託料収入】

〔質問〕

- ・中央駐車場の売り上げと3つある町営駐車場の受託料金額がほぼ同額。なぜか。

〔回答〕

- ・決算書に挙がっている数字は町からの受託料収入であり、駐車場の売上金額ではありません。

【妻籠観光協会との関係】

〔質問〕

- ・妻籠観光協会が財団に430万円くらい支払っている。売上が落ちているのに支払うのはおかしいのではないか。

〔回答〕

- ・事務委託料と事務所の共同運営費のみです。

【マラソン大会】

〔質問〕

- ・愛する会が妻籠での開催を拒否していると聞いたが真意は。

〔回答〕

- ・実行委員会の有志が大会長である理事長に対し、来年はタイトルから妻籠を抜く旨を伝えに来た。理事長からはやめるとは一言も言っていない。

*その他多くの意見を頂きました。理事会・評議員会で協議されていくと思います。

*今回定例の役員改選が行われましたが皆様にはわかりにくい様子でしたので補足説明いたします。

【役員決定までの流れ】

- ・3月28日:評議員選定委員会開催
評議員選任
- ・5月26日:評議員会開催(旧役員)
理事・監事選任
- ・6月7日:理事会(新役員)
理事・監事就任承諾、三役の選任
- ・6月14日:評議員会(新役員)
評議員就任承諾、新体制の承認
(定款に従って行われました。)



〈7月14日：妻籠分館ホール〉

6月の立場茶屋

年間4万人を超える馬籠峠越えのハイカーで賑わう一石砦立場茶屋です。閉めるのは年末年始の6日間のみです。5名の管理人が交替で道行く人々を湯茶等でもてなしています。梅漬けも喜ばれます。6月はその作業と周辺の草刈に勤しみました。



宿 場 暦

- 5月 2日：長野放送撮影
 7日：妻籠宿案内人の会総会
 10日：理事会、観協役員会
 11日：信州豊かな環境づくり県民会議総会
 18日：木曽風景道推進協議会総会（妻籠）
 20日：統制委員会、「阿智村版DMO」キックオフ
 シンポジウム（常務）、広報118号発行
 21日：木曽郡植樹祭・合同植樹祭（漆畑）、
 クールジャパン撮影
 24日：オオキンケイギク除去作業（環境保全委
 員会）、テレビ東京撮影
 26日：評議員会
 27日：日本ナショナルトラスト協会理事会（常務）
 28日：全国町並み保存連盟総会（～29日・新潟・常務）
 29日：平成28年度第1回観光地点パ°ラメータ調査
 6月 1日：豊かな環境づくり木曽地域会議総会
 2日：南木曽町リニア中央新幹線対策協議会
 4日：CBCテレビ撮影
 5日：南木曽町・妻籠健康マラソン大会
 6日：木曽風景街道推進協議会外来植物駆除講習会
 7日：理事会、観協役員会
 10日：観協女性部学習会
 12日：一石栃立場茶屋周辺草刈り作業
 14日：評議員会、南木曽町リニア中央新幹線対
 策協議会（理事長・常務）、テレビ東京撮影
 15日：地域づくりネットワーク長野県協議会幹事会
 （常務）、妻籠宿入口交差点支障木枝払
 20日：統制委員会
 21日：広報部会
 22日：外来植物駆除作業、長野放送撮影
 23日：新旧役員引継会
 27日：妻籠宿案内人の会鳥居峠研修
 28日：木曽地域文化遺産活性化協議会（常務）
 29日：広域季刊誌プロジェクト会議（常務）
 7月 1日：妻籠宿案内人の会世話人会
 5日：総務委員会
 11日：Webサイトあり方検討会（合庁・常務）
 12日：観協役員会
 14日：事業報告会（分館）
 16日：細野山ぜんこうじみち検索
 19日：木曽風景街道推進協議会外来植物駆除講
 習会（王滝村・6名参加）、中京テレビ撮影
 20日：統制委員会、妻籠宿案内人の会学習会、
 NHKBS撮影
 21日：材ハゴソウ駆除作業（環境保全委員会）
 23日：和智埜神社例祭（～24日）

- 24日：平成28年度第2回観光地点パ°ラメータ調査
 26日：名工土木城山草刈り作業（ボランティア）



- 28日：労働安全大会（三留野分館・2名参加）、
 エコパーク勉強会（常務）
 29日：広報部会

統制委員会審議事項

- 5月20日
 ・群状択伐（関電：大妻籠） 1件
 ・配電線設備の保安伐採（中電：下町） 1件
 6月20日
 ・群状択伐（関電：妻籠地区） 11件
 ・蘭川えん堤周辺の手摺・階段等補修塗装（関電：尾又） 1件
 ・側溝修繕（教委：本陣前） 1件
 ・支障木の枝払い（町：渡島中山道） 1件
 ・平成28年度重伝建事業（上町） 1件
 ・店舗併用住宅の外部塗装（下町） 1件
 7月20日
 ・路面排水処理の施工（県：大妻籠） 1件
 ・既設低圧線ルート変更及び樹木用防護管取付・変圧
 器取付（中電：中町） 1件
 ・住居除去（尾又：急傾斜地） 2件
 ・立木伐採及び枝払い（建設業協会：橋場） 1件
 ・横断溝設置（町：渡島） 1件



〈長野県建設業協会木曽支部ボランティア作業〉

発行：公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

『特定外来生物』ってなに？

妻籠を愛する会では、環境保全委員会を中心に特定外来生物の除去作業を行っています。広報「妻籠宿」でも何回も取り上げていますが、いまひとつ皆さんピンと来ないのではないのでしょうか。今回はその中でも妻籠地区に特に多く見られる特定外来植物をご紹介します。まず、

【特定外来生物とは…？】

もともとその地域にいなかったのに、人間活動によって他の地域からもちこまれた生物のうち、地域の自然環境に大きな影響を与えたり、農作物に被害を与えたりするものを法律により『特定外来生物』として指定しています。

なんとなく解りにくい…。私たちに一番身近な外来植物は「セイヨウタンポポ」ではないでしょうか。これに対し、在来種の「ニホンタンポポ」はあまり見かけないですね。私は今年木曽町で「カンサイタンポポ」にめぐり合いました。しかし、セイヨウタンポポは特定外来種には指定されていません。

妻籠で確認されている特定外来植物は、「オオキンケイギク」「アレチウリ」「オオハンゴンソウ」です。「アレチウリ」はうり科ですが、棘がとっても痛い。大妻籠の一部に自生しています。問題は「オオキンケイギク」と「オオハンゴンソウ」です。いずれも黄色で愛らしい。国道19号沿線でも多々見られますが、綺麗なのでこの花だけ残して草刈りをしてある所が多く見受けられます。こうして増えてしまったのです。



〈オオキンケイギク〉



〈オオハンゴンソウ〉

こうした外来生物が増加すると、在来種を駆逐し、消滅させてしまう恐れもあります。やはり、日本本来のものは大切にしたいですね。わたしたちにできることは、外来生物を「入れない、捨てない、拡げない」の三原則を守り続けていくことしかありません。

そこで、愛する会では環境保全委員会を中心に毎年駆除作業を続けています。今年は5月24日、6月22日、7月21日に愛会独自で、また、6月6日と7月19日には木曽風景街道推進協議会の講習会と駆除作業に参加しています。

(広報部:下枝)



〈5. 24 オオキンケイギク駆除作業〉



〈6. 6 読書棚野地区オオキンケイギク群生〉



〈オオハンゴンソウ〉